

科目	教育方法論	担当	小川 純子	履修学年	3年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	必修	単位数	2単位

**【授業目標・到達目標】**

教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)では、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。

これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。

教育の目的に適した指導技術を身に付ける。

情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。

**【履修注意】**

教職課程を履修する学生の必修科目であり、教職課程を希望しない場合は受講できない。

欠席は4回までとする。(遅刻2回で、欠席1回とする。)パソコンを持参する。

**【評価方法】**

定期試験(中間まとめと期末試験)70%、小論文、小テスト、提出物、講義への参加意欲30%によって総合的に評価する。

**【試験について】**

中間まとめと期末試験を実施する。また、毎時間、小論文または小テストを実施する。

再試験対象者の条件: 不合格者のうち、小論文すべて提出、小テストすべて合格、筆記試験40点以上の者

**【予習・復習】**

学修時間は1単位45分が文部科学省指針である。本講義は2単位科目なので、90分の講義に対して90分の自宅学習(予習、復習)が必要である。講義の都度自宅学習の内容を指示するので、次の講義時に提出する。

**【教科書】**

購入教科書なし

**【参考書】**

特に指定しない

**【その他の注意事項】**

**【授業計画・内容】**

回数	項目	内容
1	授業の歴史Ⅰ(日本)	ガイダンス 幕末期から戦前にかけての授業 戦後教育改革の流れ
2	授業の歴史Ⅱ(欧米Ⅰ)	古代ギリシャから18世紀にかけての授業 新教育による学校改革効率主義教育 教育の民主化
3	授業と学びの世界	様々な授業 TIMSS調査PISA調査からの考察
4	授業の形態	教師主導型授業 学習者中心授業 ICTを活用した授業
5	新学習指導要領と学校教育Ⅰ	新学習指導要領に至る経緯
6	新学習指導要領と学校教育Ⅱ	新学習指導要領と教育課程 改訂にかかるポイント
7	授業の研究Ⅰ	授業の概念 授業のデザイン 授業の分析
8	授業の研究Ⅱ	学習の再定義 技術的実践と反省的実践 中間のまとめ
9	中学校の授業分析	観察実習における参観授業の分析
10	学級経営Ⅰ	学級経営とは何か キャリア教育の対応
11	学級経営Ⅱ	子どもや保護者との関わり いじめの対応
12	授業の指導技術	授業分析 会話分析 自己調整学習 ピア・ラーニング
13	教職の専門性	専門職としての教師 技術的熟達者と反省的実践家 教師文化
14	組織の一員としての対応	子ども対応 保護者対応 他の教師や関係諸機関との対応
15	教育方法の課題と改革への展望	教えと学びの関係の変化 知識と教育の関係の変化
16	期末試験	15コマの復習・確認・総まとめ